

結晶加工と評価技術第145委員会
第100回研究会
「Q T A T半導体生産技術シンポジウム」

主催：独立行政法人 日本学術振興会，国立大学法人 熊本大学，Q T A T熊本研究会

共催：九州経済産業局

協賛：文部科学省，経済産業省（予定）

日時：2004年5月21日（金）12時50分から 19時00分

開催場所：熊本大学工学部 百周年記念館（多目的講義室 200名収容可能）

世話人：熊本大学 久保田 弘

参加費等：資料代実費 2,000円（学生は学生証の提示で，**145委員は無料**）

交流会費 3,000円

開催趣旨：

熊本地域は半導体製品の日本全体の1割強を生産する地域である。生産技術のイノベーションは微細化，設計コスト低減，マスクコストの削減を行いながら多品種少量生産と短工期（Q T A T）に対応する必要がある。1998年より大見忠弘東北大学名誉教授を研究統括にお迎えし，熊本大学を中心として取り組んできた

熊本地域結集型共同研究事業においてその道具立てについて多くの提案がなされてきた。その目標は設計・プロセス加工・検査修正を一体化してQ T A Tに製品をマーケットに投入すること，新しいアイデアに果敢に挑戦できる試作環境を構築すること，すなわちQ T A T生産拠点を目指している。これにより日本の半導体製造技術を地方から活性化し，その先導的な技術力で生産拠点のアジア各地との有効なパートナーシップをも構築できると期待されている。

また熊本地域は東京多摩地区や静岡浜松地区と並んで地域クラスターの成功事例として知られている。経済産業研究所の児玉上席研究員の講演を通じて地域クラスター形成の成功のポイントをさぐり，今後の地域クラスターのあり方について基本的方向と課題を検討する。

さらに，Q T A T生産技術を確立するために大きな課題となる後工程に関わるめっき技術，CMP技術，設計・計測技術等を扱う研究会を行い，今後の地域における中小企業の技術の開発方向を明確に示すことを目的とする。

プログラム

シンポジウム【公用語：日本語】

開催日時：2004年5月21日(金) 12時50分～19時00分

シンポジウム会場：熊本大学工学部 百周年記念館

世話人：熊本大学 久保田 弘

13時10分 開会挨拶

熊本大学長 崎元 達郎(案)

熊本県 商工観光労働部 渡邊 昇治(案)

第1部 テーマ「TAMAと九州の比較に見る産業クラスター計画の課題」

13:00-13:50

経済産業研究所 児玉 俊洋

第2部 テーマ「Q T A T半導体製造技術のための後工程課題」

14:00-

「Q T A Tを実現するレチクルフリー露光技術と超精密検査技術」

熊本大学助教授 中田明良

14:50-

「検査工程の高度化と後工程の合理化(仮題)」

東京カソード研究所 林田 学

15:30-

「高周波高密度プリント配線板用絶縁材料」

日本ゼオン(株) 杉村 正彦

16:10- 休憩

16:20-

「S I P用拡散防止膜のめっき成膜」

熊本大学 本武 幸一

17:00-

「T n NゲートM O S F E T」

国際科学振興財団 大嶋 一郎

17:45-19:00

第3部 懇親会

以上